

研究主任（5年社会）

- 1 研究主題 「表現力・コミュニケーション力を高める指導方法の工夫」
－ 学び合い認め合い高め合う学習活動を目指して －

2 育てたい力

◆表現力

- 伝えたい内容や相手に応じて表現方法を選択し、資料を活用するなどして、自分の思いや考えを的確に表現することができる。
- 思いやりの気持ちを大切にし、相手の立場を考えて表現することができる。

◆コミュニケーション力

- 自分の考えを持って相手の話を聞き、質問や意見、感想を伝え合うことができる。
- 相手の話を聞いてよりよい考え方や新しい考え方に気づき、互いに向上しようとすることができる。

3 研究の視点と手だて

〔視点1〕 問題意識や自分の考えを明確に持って学び合う場の設定の工夫

- ペア学習やジグソー学習を取り入れるなどしてグループの形態を工夫し、意見・感想の交流や発表の機会を意図的に設定して表現力を高め、児童同士の学び合いを深める。

〔視点2〕 情報活用能力の育成を意図した学習活動の工夫

- 調べ学習の過程に、インターネットやプレゼンテーションソフトなどのICT活用や、はがき新聞づくりを取り入れることにより、複数の資料を関連付けて読み取ったり、必要な資料を検索・収集・選択・整理・再構成したりできる能力を育む。
- 複数の異なる意見を情報発信者の意図を考えながら聞き、情報の正誤や善悪を的確に判断して他者とコミュニケーションできるようにする。

〔視点3〕 児童の変容を見取る評価の工夫

- 単元の事前と事後にアンケート調査を実施して児童の意識の変容を明確にし、指導の手だての妥当性を検討する。

研究主任（5年社会）成果と課題

〔視点1〕問題意識や自分の考えを明確に持って学び合う場の設定の工夫

○ペア学習やジグソー学習を取り入れるなどグループの形態を工夫した結果、児童全員が発表する機会を意図的に設定できた。このことは、児童の学習意欲や資料作成の技能・表現力を高めることにつながり、児童同士の学び合いを深めることができた。

▲ジグソー学習において課題別グループの人数を2～3人と少なくしたものの、調べてまとめる過程で友達まかせになっていた児童は、ホームグループでうまく説明できていなかった。個々の児童が学習に主体的に取り組むために、課題別グループでの活動のさせ方を工夫する必要がある。

〔視点2〕情報活用能力の育成を意図した学習活動の工夫

○調べ学習の過程に、インターネットやプレゼンテーションソフトなどのICT活用やはがき新聞づくりを取り入れることにより、必要な資料を検索・収集・選択・整理して発信したい情報を再構成する経験を積ませることができた。

▲情報の正誤や善悪を的確に判断して他者とコミュニケーションできるようにするために、複数の異なる意見を情報発信者の意図を考えながら聞くことができるような学習活動を工夫していきたい。

〔視点3〕児童の変容を見取る評価の工夫

○単元の事前と事後にアンケート調査を実施することで、児童の意識の変容を明確にすることができた。

▲「自分でよく考えながら友達の発表を聞く」ことに関しては児童の意識の向上が見られたが、「調べたことを友達に教える」ことに関しては変化が見られなかった。表現することに自信を持たせるような指導や個に応じた支援の工夫を図っていきたい。

